



イヌブナ(犬撫・犬山毛櫨) <ブナ科 ブナ属>

本州から九州の中間温帯に自生する落葉高木。冷涼な気候を好むブナより標高の低い山地に生え、北日本の日本海側には分布しない。葉は長さ6~10 ㍎、幅3~6 ㍎の長楕円形で、ふちには波状の鈍い鋸歯があり葉の質はやや薄い。花は4~5月、葉の展開と同時に咲き、秋に1 ㍎位の堅果を熟す。近縁種ブナとの違いは、葉裏の脈沿いに長毛が多く、葉のふちがあまり波打たず、側脈が多いことや、萌芽力が強くひこばえを出す等。また、ブナの樹皮がなめらかな明るい灰色で地衣類をよく付けるのに対し、イヌブナには地衣類がさほどつかず、イボ状の皮目ひもくがあり黒っぽく見える。別名クロブナ。名は、材の質がブナに劣ることに由来する。▼この春、湯来の狐原山周辺の植物観察会に参加し、イヌブナの存在を知った。驚きと同時に、描かせてもらおうとの思いが募り、やっと実現。▼人の目線で「イヌ」と付けられた植物の多いこと。しかし決して劣ってはいない。どれも皆オンリーワンの素敵な植物たち。▼里山に秋が巡ってきた。木々たちは自分色に葉を染め上げ山々を美しく彩る。個性が際立つすてきな季節の到来だ。